

左手のフルーティスト

病乗り越え
左手用フルート駆使 畠中秀幸さん

山崎甲子男 男声合唱団ススキノ/ラジオカロスサッポロ

コミュニティFMラジオカロスサッポロ「ススキノと共に」第878回のゲストは建築家であり、音楽家、それも脳卒中の後遺症で右手が不自由で、左手だけでフルートを吹いたり、吹奏楽団を指揮するという畠中秀幸さん(55歳)でした。広島県生まれ、千葉、大阪、東京を経て、小6で札幌へ。小5からフルートを習い、中学、高校で3年連続管楽器コンクールの全道大会で1位。札幌市立北辰中学では、合唱部で岩河三郎作曲「海に沈んだ馬」を指揮して「指揮者賞」を受賞、卒業式では交響詩「フィンランディア」を演奏しました。札幌北高に進学して吹奏楽部に入部、卒業式では吹奏楽と全校合唱の指揮をしました。将来は音楽の道も考えましたが、1浪して京都大学建築科に入学。大学オケのトップといわれた京大交響楽団に入団しましたが勉強との両立が困難となり退団。大学院修士課程を終え、札幌のアトリエ・ブंकに入社して札幌ドームの設計などに携わり、2003年に34歳で独立し、数々の建築賞を受賞。



建築のような音楽、音楽のような建築目指し、光と音と風に拘った建築に取り組んできました

2011年5月吹奏楽団を指揮していて突然、脳卒中で倒れました。真っ先に気づいて、救急車を呼び、ICU(集中治療室)に運んだのが、高校の吹奏楽部の1年後輩だった妻のさおりさんでした。素早い搬送と専門医の治療で一命は取り留めましたが、残念ながら右半身のまひが残りました。

「どちらも左手だけでは困難な職業ですが、ハンディを負ったと思ったことは一度もありません」

2018年に竣工したオペラ仕様の札幌文化芸術劇場 hitaruのオープニング企画「Primitive」公演で初めて男声合唱団ススキノが hitaru に出演した時、吹奏楽団を率いて指揮したのも畠中さんでした。

懸命なりハビリで日常生活は取り戻したものの、楽器だけはムリと諦めかけましたが、やはりフルートから離れることはできず、一大決心して山田フルート・ピッコロ工房に、世界で唯

一左手だけで吹けるフルートを作ってもらいました。そして、2022年7月ついに札幌コンサートホールKITARA小ホールでコンサートを開き、大きな話題となりました。

さらに、さまざまな善意の人との出会いがあり初ソロCDアルバム「音の建築」を発売、同時に自伝「左手のフルーティスト」(音楽之友社)を出版し、自ら設計したホールや寺院、教会などで演奏する「旅」ツアーを始めています。

ラジオカロスサッポロでは、①シューベルトの『アベ・マリア』を祈りを込めた左手のフルートでの生演奏に続き、②CDアルバムからグノーの『アベ・マリア』：愛妻さおりさんのクラネットのために編曲したもの、③ピアニスト小川紗綾佳さん作曲の『雪の翼』：2023年G7サミット札幌の歓迎レセプションで2人で演奏したもの、④左手のピアニストとして世界的に評価されている有馬圭亮さんが作曲した2人の左手の奏者のための『箱庭』の心に染みわたる演奏を放送しました。

畠中さんは、将来の目標として「アマチュアとプロと一緒に演奏する『北海道吹奏楽プロジェクト』の発展と、コンサートホールを中心に障がい者や恵まれない子供たちが暮らす『アートビレッジ構想』を実現することです」と力強く話してくれました。

※CD、著作、演奏会の問い合わせはシンフォニカ・スクエア 011-215-6400まで。



山崎甲子男 プロフィール



左が山崎さん

1940年生まれ。札幌出身。早稲田大学混声合唱団では大学創立80周年フロイデハーモニーで小澤征爾指揮「第九」を歌う。STV(札幌テレビ放送)入社、放送記者、テレビ、ラジオのディレクター、プロデューサーとして音楽番組を手掛ける。ラジオ日本常務取締役編成局長などを経て、現在ラジオカロスサッポロ・エグゼクティブプロデューサー兼パーソナリティ。2005年男声合唱団ススキノ入団、2008年サントリーホールで「男だけの第九」(新日本フィル)を歌う。